



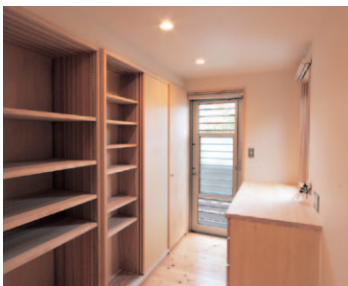
リビングと庭をつなぐウッドデッキ。家庭菜園、芝生にも囲まれ、家族だんらの舞台になりそうだ



洗面・脱衣室の窓も大きく明るい。鏡は左右にスライド可能。部屋干し用のポールも装備



子供部屋の奥は吹き抜けとつながる多目的のロフト。過乾燥を防ぐ部屋干しや家具収納などいろいろと使えそう



キッチンからつながるユーティリティ。「実家から農産物のお裾分けが多い」と、作業台には野菜保存用のスペースも用意

家族の一体感を感じる心地よい省エネ空間
「これから家族がどう暮らしたいかを考えたとき、自然木の家づくりをしようと共感したんです」と話すH邸の夫婦。スムーズな家事・生活動線を整えながら、細部にライフスタイルを反映

させているのがポイント。リビングの書斎コーナーの棚には、ITやオーディオのラインがかくれている。子供部屋への動線や、2階から階下へ顔を出せる窓など、家族との距離が近くなる仕掛けがあちこちにある。通常、吹抜けを設け、南

側に大きな開口を設けると、強度の確保が難しくなる。しかし、今回のH邸は、構造的な工夫で、耐震等級3を確保した長期優良住宅。地域材を使ったブランド化事業の補助対象のモデルである。断熱性能も屋根面に190mmのセルロースファイ

バーを充填、ゼロエネ住宅にも採択される性能を持つ。自然エネルギーを使った心地よい省エネ生活を目指しながら、高効率のガス設備も適材適所に採用し、家事負担の軽減や快適性のアップも目指している。

省エネ・経済性と心地よさを両立 街中に建つパッシブデザイン住宅

建築工房 自然木(じねんもく)

- 木造軸組在来工法 ●鹿児島市 ●H邸(夫婦+子ども3人)
- 本体価格(～1500万・1500～2000万・2000～2500万・2500万～・要問い合わせ)

鹿児島市 H邸

NO.11

■DATA	■SCHEDULE
土地面積/164.41㎡(49.73坪)	設計期間/4か月
延床面積/102.90㎡(31.13坪)	建築期間/5か月
1階面積/62.33㎡(18.86坪)	
2階面積/40.57㎡(12.27坪)	
用途地域/一種低層住居	



リビング階段から2階へ。光と風が通りぬける吹き抜けには、子供部屋からの気配窓。書斎コーナーは、ご主人のIT・オーディオコーナー。キッチン奥は、収納たっぷりのユーティリティ

Family Voice

光・風を取り入れるパッシブデザイン住宅の考えに共感。竣工後も施主さんと長く交流が続いている様子を見て、信頼できるビルダーだと感じました。これからの暮らしが楽しみです!

こだわりcheck!

こんな家が欲しかった 私たちが希望した3つのこと

- ①さり気なく家族がつながる
プライバシーを確保しながら、家族の気配が感じられる空間構成。家族構成の変化にも対応できる柔軟性のある間取りです。
- ②パッシブデザイン住宅
都市部のコンパクトな敷地にも適応するパッシブデザイン住宅のプロトタイプ。大きくとった窓から射し込む木漏れ日のような光が良いですね。
- ③ガス機器を賢く活用
厨房や調理、衣類乾燥機など、電気よりガスの方が効率的だし、料理もおいしく出来ます。上手に使用すれば、電気より省エネ性も高いです。

建築工房 自然木(じねんもく)

【所在地】鹿児島市永吉2丁目29-3
【建設業許可番号】鹿児島県知事許可(般-25)第14664号
【取扱業務】注文住宅、リフォーム、店舗、マンション、ウッドデッキ等ガーデンリフォーム、植栽工事、古民家再生
【取扱工法】木造軸組在来工法、コンクリート木造軸組混構造、RC造、鉄骨造

▲本実例をもっと知りたい方、
▲施工会社へのお問い合わせ先
TEL099-812-5701
<http://jinenmoku.life.coocan.jp/index.html>
E-mail jinenmoku@nifty.com
※「かごしまづくりの本を見た!」とお問い合わせください。

施工会社メッセージ

H様邸は市街地に建つシンプルなパッシブデザイン住宅。コスパを意識したほぼ総2階の中に、光・風・熱を取り込みながら強度も確保。当社のプロトタイプとなるスタイルで、地域型住宅ブランド化事業にも採択された長期優良住宅です。

建築工房 自然木(じねんもく)
取締役 村田 義弘さん

オフホワイトと木目がやさしげな雰囲気があるH邸。開放的な外構だが、植栽の配置が程よい目隠しに

自然エネルギーを賢く活用 省エネと快適性を両立

H邸は自然木が提案するコンパクトな街中の敷地に馴染む、2階建てパッシブデザインのスタンダードモデル。これをベースに、作り付けの収納や作業台など、住まい手の生活スタイルに合わせた詳細設計を進めた住宅だ。総2階に玄関の下屋が付いたシンプルな構成だが、吹抜け上部のハイサイドライトと大きく開いた掃出し窓から、通常市街地では光が入りにくい1階奥まで太陽光が届き、通風も十分確保されている。日中は、どこにも照明を点ける必要がない。

季節によって変化する太陽光への対応は、「夏、南側サッシには、陽射しを当てない」軒の出を確保し、冬の日射取得も十分検討しながら、CGシミュレーションで確認してあるとのこと。

また、開口部に設置する、通風ガラーリ雨戸は、夜間の通風の確保と、日中の日射遮蔽にも効果的だと言う。出来るだけ空調機に頼らない工夫が満載だ。今回、形をシンプルに整理したこと、リーズナブルな価格も魅力となった。